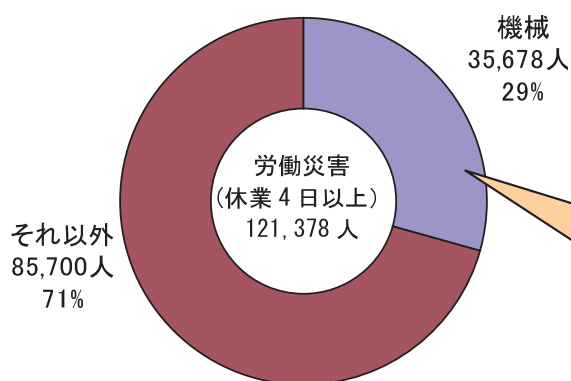


機械による労働災害の発生状況

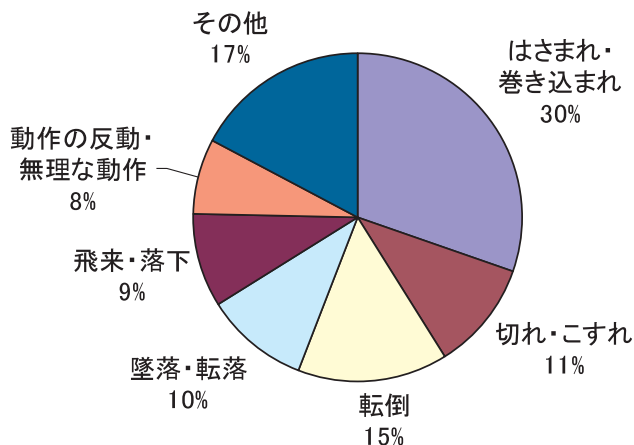
図1 機械災害の発生状況（平成18年）



休業4日以上労働災害のうち、機械による労働災害は約3割を占めており、機械災害の防止対策が重要な課題となっています。

機械の種類をみると、例えば、食品加工用機械、金属加工用機械、木材加工用機械、コンベアなどで多く発生しています。

図2 事故の型別労働災害発生状況（製造業 36,670人）



特に製造業においては、機械災害の割合が高く、労働災害の事故の型別にみると主に機械設備に起因する「はさまれ・巻き込まれ」「切れ・こすれ」が全体の約4割を占めています。

機械災害の課題

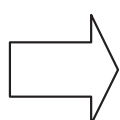
- 1 機械は大きなエネルギーを有することから、指の切断など身体に障害を残す重篤な災害が少なくないこと。

平成17年機械による指の切断を伴う災害 約3,200人

- 2 機械は製造段階で安全対策を施すことにより、危険性を確実に低減させることができること。

機械の危険部分をなくす、危険部分にガードを設ける等の保護方策を講じることにより、相当の災害が防げたとのデータもあります。

- 3 非定常作業（保守点検、そうじ、トラブル処理等）時の災害も多く発生しており、このような作業を想定した対策も必要であること。



機械メーカー、ユーザーの両者が、この機械包括安全指針に基づき、製造段階及び使用段階において機械の安全化を進めることが重要